

平成 12 年（2000 年）1 月 1 日～令和 5 年（2023 年）3 月 31 日の間に岡山大学病院においての悪性腫瘍の治療を受けられた方へ

—「悪性腫瘍における HRG(Histidine-rich glycoprotein)、DAMPs(damage-associated molecular patterns)およびその受容体の発現検討」へご協力をお願い—

研究機関名 岡山大学大学院 医歯薬学総合研究科

研究機関長 成瀬 恵治

研究責任者 岡山大学学術研究院医歯薬学域 細胞生物学分野 教授 阪口 政清

研究分担者

岡山大学学術研究院医歯薬学域 呼吸器・乳腺内分泌外科学分野 教授 豊岡 伸一

岡山大学学術研究院医歯薬学域 消化器外科学分野 教授 藤原 俊義

岡山大学学術研究院医歯薬学域 皮膚科学分野 教授 森実 真

岡山大学学術研究院ヘルスシステム統合科学学域 生体情報科学分野 教授 森田 瑞樹

岡山大学病院 臓器移植医療センター 准教授 杉本 誠一郎

岡山大学学術研究院医歯薬学域 助教 木下 理恵

岡山大学学術研究院医歯薬学域 助教 山本 健一

岡山大学学術研究院医歯薬学域 臨床遺伝子医療学分野 講師 山本 英喜

岡山大学病院 呼吸器外科 准教授 岡崎 幹生

岡山大学病院 呼吸器外科 助教 諏澤 憲

岡山大学医学部 細胞生物学分野 客員研究員 友信 奈保子

1. 研究の概要

1) 研究の背景および目的

がんが存在すると、S100 タンパク質ファミリーや HMGB-1 (high mobility group box-1) に代表される DAMPs (damage-associated molecular patterns) という炎症を引き起こすタンパク質が特定の臓器で増え、がん細胞を引き寄せることがあります。これまでに私たちは、S100 タンパク質ファミリーのひとつである S100A8/A9 ががんの存在下で肺に高発現し、がんの肺転移を引き起こすことを報告しています。新たに、DAMPs に結合してその機能を阻害するタンパク質として HRG (histidine-rich glycoprotein) に注目し研究を進めています。HRG は肝臓で産生されますが、肝臓の機能障害（肝硬変など）や他の炎症性疾患が併発することにより HRG が減ると、転移のリスクが高まることが懸念されるほか、DAMPs と HRG のバランスによってがんの転移が起こりやすい臓器が決まる可能性も考えられます。私たちはこの研究で、がん患者さんでの DAMPs とその受容体、HRG、炎症性物質などの発現を明らかにすることを目的としています。

2) 予想される医学上の貢献及び研究の意義

DAMPs とその受容体群や HRG などの発現プロファイルを作成することにより、がんの転移が起こるリスクや転移しやすい臓器の予測ができるようになる可能性があります。また、これらの分子をターゲットとする様々な治療法の開発につながることも期待されます。

2. 研究の方法

1) 研究対象者

平成 12 年（2000 年）1 月 1 日から令和 5 年（2023 年）3 月 31 日の期間に岡山大学病院で医療行為を受けた悪性腫瘍の患者さんを対象とし、200 名を予定しています。

2) 研究期間

倫理委員会承認日～令和 12 年（2030 年）12 月 31 日

3) 研究方法

血液、気管支洗浄液、喀痰、胸腹水、尿、便、組織中などの HRG と DAMPs 関連タンパク質の濃度およびそれらの受容体、炎症性サイトカイン濃度などを ELISA および Western blotting などで測定します。また、組織については免疫染色を行い、HRG と DAMPs 関連タンパク質およびそれらの受容体などの発現を評価します。その際に、対象の患者さんのカルテ情報（年齢、性別、既往歴、家族歴、診断名、病期、臨床経過、検査結果、画像データ）を使用します。

4) 使用する試料

この研究にはすでに得られている血液、喀痰、気管支洗浄液、胸腹水、尿、便、組織を使用させていただきます。氏名、生年月日などのあなたを直ちに特定できる情報は削除し使用します。また、あなたの情報が漏洩しないようプライバシーの保護には細心の注意を払います。

5) 使用する情報

この研究に使用する情報として、カルテから以下の情報を抽出し使用させていただきますが、氏名、生年月日などのあなたを直ちに特定できる情報は削除し使用します。また、あなたの情報などが漏洩しないようプライバシーの保護には細心の注意を払います。

- ・年齢、性別、既往歴、家族歴
- ・診断名、病歴、治療経過
- ・各種検査（採血、画像検査など）の結果

6) 外部への試料・情報の提供

予定していません。

7) 試料・情報の保存、二次利用

この研究に使用した試料・情報は、研究の中止または研究終了後 20 年間、岡山大学大学院 医歯薬学総合研究科 機能再生・再建科学専攻 細胞生物学分野および病態制御科学専攻腫瘍制御学講座 呼吸器・乳腺内分泌外科学分野で保存させていただきます。電子情報の場合はパスワード等で制御されたコンピュータに保存し、その他の試料・情報は施錠可能な保管庫に保存します。なお、保存した試料・情報を用いて新たな研究を行う際は、倫理委員会にて承認を得ます。

8) 研究計画書および個人情報の開示

あなたのご希望があれば、個人情報の保護や研究の独創性の確保に支障がない範囲内で、この研究計画の資料等を閲覧または入手することができますので、お申し出ください。

また、この研究における個人情報の開示は、あなたが希望される場合にのみ行います。あなたの同意により、ご家族等（父母（親権者）、配偶者、成人の子又は兄弟姉妹等、後見人、保佐人）を交えてお知らせすることもできます。内容についておわかりになりにくい点がありましたら、遠慮なく担当者にお尋ねください。

作成日 2019 年 11 月 11 日

改訂日 2025 年 10 月 4 日

第 2 版作成

この研究は氏名、生年月日などのあなたを直ちに特定できるデータをわからない形にして、学会や論文で発表しますので、ご了解ください。

この研究にご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。また、あなたの試料・情報が研究に使用されることについて、あなたもしくは代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申し出ください。ただし、すでにデータが解析され、個人を特定できない場合は情報を削除できない場合がありますので、ご了承ください。この場合も診療など病院サービスにおいて患者の皆様に不利益が生じることはありません。

<問い合わせ・連絡先>

岡山大学大学院 医歯薬学総合研究科 細胞生物学

阪口政清（研究代表者）

木下 理恵、山本 健一

電話：086-235-7394（9 時～17 時 細胞生物学教室）

住所：〒700-8558 岡山市北区鹿田町二丁目 5 番 1 号